◆TOPICS

先端プロ「自給飼料を導入した大規模水田輪作による耕畜連携システムの実証研究」令和元年度現地検討会

７月17日～18日の両日にわたり、福島県南相馬市、相馬郡新地町の現地実証経営および福島市のコラッセふくしまにおいて、農林水産省の実証研究事業である食料生産地域再生のための先端技術展開事業（先端プロ）「自給飼料を導入した大規模水田輪作による耕畜連携システムの実証研究」（以下、本プロジェクト）の現地検討会を開催しました。検討会には、本プロジェクトの全小課題の担当者を含む関係者46名の参加がありました。

１日目は、原ノ町駅に集合後、借り上げバスで南相馬市小高区の（株）紅梅夢ファームに設置の輪作試験実証圃場、新地町の（有）恵みのファームに設置の播種作業試験、輪作試験および湿害対策試験の各実証圃場を視察しました。（株）紅梅夢ファームでは同社の紺野専務から、また（有）恵みのファームでは同社の加藤代表から、本年の気象、作業概況について説明を受けるとともに、本プロジェクトの実証技術に対する評価についてお話しをいただきました。特に、（株）紅梅夢ファームの紺野専務からは、輪作試験で供試しているダブルプレート式高速高精度播種機の作業速度と播種精度、またその後の作物の生育について評価している旨お話いただきました。また、本年の作物の生育経過について、水稲では昨年以上の生育が確保されていること、子実用トウモロコシは長雨の影響で一部湿害を生じ生育ムラはあるものの、昨年並みの生育となっていること、ダイズでは適期播種できた試験圃では良好な出芽が得られた一方で、播種が梅雨時期にずれ込んだ圃場では強い湿害を受けていることなどを試験担当者から説明を受けるとともに参加者一同で実地に確認することができました。現地実証圃場の視察終了後、翌日の室内検討のため、借り上げバスで福島市へ移動し、１日目の日程を終えました。

２日目午前はコラッセふくしま特別会議室で、個々の研究課題の進捗状況、推進上の問題点、必要な課題間の連携などについて検討しました。特に、１日目の現地視察でも一部で問題視されていた畑作物に対する湿害については、プロジェクトとしてどのような対策、作業体系を推奨していくかについて課題間で整理を行い、最終年度となる次年度の試験に万全を期すよう申し合わせました。その他、研究成果の実装先として想定する沿岸部の復興牧場計画の現況などについて、情報の共有をおこないました。

（生産基盤研究領域　中山壮一）